

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500782		
法人名	社会福祉法人 寿泉会		
事業所名	八幡園グループホーム		
所在地	三重県津市津興2947		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町提出日	平成24年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470500782&SCD=320&PCD=24>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成23年12月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関係性を重視している。地域に密着した開かれた施設として交流の機会を多く持つようになっている。自治会の活動や行事への参加や協力など積極的に行っている。また地の利を生かしての買い物や外出なども頻繁に行っており、利用者の暮らしへの活性化へ役立っている。更に食事作りやお菓子作りなど食への関わりを通じて生活リハビリを行い、楽しみながら活性化出来るような取り組みを多く行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢化の進む住宅地で、デイサービスを持つ事業所である。デイサービスの休日にはその施設を利用して、地域住民が自由に参加できる喫茶サロンを開設し、馴染みの場所や人との関係を継続しながら暮らしていけるホームとしての運営がなされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	八幡園グループホームは共有した理念に基づいてサービスを提供し、実践している。	誠実と和を理念に、「焦らず、諦めない」介護の展開を会議や実践の場を通じて共有して、介護実践に望んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	八幡町自治会の一員として行事への参加や協力を行い、地域での馴染みの暮らしが出来るような交流を行っている。	自治会の清掃活動や地蔵尊の清掃、小学生の訪問、施設見学、介護教室、喫茶サロン開設等、地域と積極的に交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や老人会などを通じて機会あるごとに地域の方々に理解をしてもらえるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での場を活かし忌憚のない意見交換等でサービス向上に繋がるようにしている。	定期的開催し、施設からの報告だけでなく自治会からは、地域行事への参加や合同の防災避難訓練の開催の提案、施設からは喫茶サロン開設、食事試食会への招待等、双方からの意見交換が積極的になされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他にも相談や情報交換など協力関係を築きつつある。	市担当者、包括支援センターと常日頃から意見交換や指導を受ける関係が有り、地元の高齢者介護について協働・協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の無い介護のためにテキストで学習したり話し合いや掲示物で啓発を促している。	地域に開かれた施設運営で、馴染みの場所や人との関係継続と閉鎖的にならない支援姿勢で、心身共に拘束感が無い介護を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為にテキストで職員各自が学習したり話し合いで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度の利用者がいるため学ぶ機会も多く理解もし易く活用出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族へ丁寧に時間をかけて納得・理解のいくまで説明を行い、慎重に契約を結べるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会ある毎に意見や要望を出して頂くようにしており、話しやすい雰囲気留意し意見には真摯に向き合うようにしている。	面会時面談や電話でのやり取りから積極的に意向や意見の把握に努力している。どんな些細なことにも耳を傾ける姿勢で臨んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議だけでなく機会あるごとに意見や提案を出して運営に活かせる様にしている。	代表者や管理者は、会議や実践の場から職員の思いや意見を積極的に聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所を考慮して職員が働き甲斐があるような職場環境を作るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員毎に内外の研修の機会を利用したり、先輩職員からの実情に合わせたきめ細やかな指導で職員が育つような取り組みを行っている。また、資格試験へ向けての強力なサポートも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会や外部の研修の参加や内部の施設間研修会での勉強でサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	良い関係作りのため時間をかけて話し合いの機会を設け要望や心情の把握に努めている。更に周りの方からの情報も参考に関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけてよく話し合いを行い、理解を深めてもらえるような会話を心がけ、信頼関係を築くような働きかけを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者への理解をあらゆる場面で深められるように本人や家族の意見を念頭に職員が一丸となって把握に努めサービスへ結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が無理なく生活の場面で持てる力を発揮して生活を支えてもらえるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支援が大切な事を家族に理解してもらおうと同時に無理なく出来る事は支援してもらえるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人の訪問が頻繁に出来るようにまた馴染み場所への行き来がし易いように支援している。	家族・友人の面会が多く、デイサービス利用者が頻繁に来る等、外部との接触機会が多く、馴染みの場所や人との継続を積極的に進めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく居心地良く過ごせるように常に利用者の心情の変化の把握に努め、良い関係が崩れないよう助け合えるような関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の後も機会ある毎に支援できるような関係を続けられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の希望や意向を日頃から職員が注意深く接する事で把握しようとしている。	優しいふれあいを大切にし、暮らしを楽しむ・生きる喜びを共有することで意向が表出し易い関係作りと、どんな暮らしが望みかを一緒に考えることで思いが把握できると考え、配慮した姿勢で臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のみならず家族や友人など縁者からの情報を多く集める事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や業務・夜勤日誌等また申し送り等で全員の職員が情報の共有が出来るようにしている。また常に変化を見逃さず現状を把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族を核にサービス担当者がアセスメントを行い、現状に合った介護計画になるよう更にモニタリングを毎月行い検討してそれらをもとに作成している。	介護実践記録、気付きを含めたアセスメントシートを毎月評価しモニタリング、ケア会議で検討し、3ヶ月に1回の計画見直しを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の情報がしっかり把握出来るように個別の記録をしっかりつけることで実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者各自の独自性を大事にして生活全般、特に食事や嗜好などに対して柔軟な対応が直ぐ出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の幼稚園や保育園、自治会、老人会、ボランティア等の協力で催しへの参加や訪問を受けたりと自由で豊かな生活が出来るように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大事にし、本人や家族が安心して医療を受けられるように支援している。	原則的にそれぞれのかかりつけ医への受診を家族と共に支援している。緊急時対応では、その都度家族と相談し受診への支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理は元より体調不良の時に早めに医療と連携が取れるように看護師が常に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療に専念されたり元の生活に戻る為に支援出来るように医療機関と相談や情報交換の出来る関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の初期の頃より本人や家族の意向を確認しておりその後も機会ある毎に話し合いを心がけるようにしている。	入居当初から家族とは意向や希望を確認し合い、状況に応じた話し合いで支援の方法を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の一人一人が実際の事故報告書を元に学んだり、マニュアルや研修の機会でも学ぶように働きかけ実際に身に付くようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行い、地域との連携にも力を入れている。	運営推進会議でも提案があったように、昨今の自然災害に関する意識から地域自治会防災会と合同での災害対策が検討されていて、年2回消防署指導のもと避難訓練と一時避難所まで避難する訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせて、最善の言葉を選び優しい声掛けを実践している。	誠意と和を基に、焦らず・挫けず・やさしいふれあいで、楽しい暮らしの実現を共に考える介護を強要しない、対応が威圧的にならない等利用者の尊厳を意識した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことにも利用者の意向を確認するようにしており意思の決定が可能な限り出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が思い通りの過ごし方が出来るようケアプランをもとに個々を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みよく聞いて希望を取り入れてその人らしくいられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際は利用者の好みや要望を良く聞いて必ず取り入れるようにしている。また、無理なく調理や片付けが出来るように支援している。	季節感を感じる食材、高齢者に優しい味付け、楕円形に配置された食卓で、利用者・職員共に皆の目や話が弾むセッティングが、楽しい食事風景をかもし出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の具合を見て摂取量チェックを行ったり、いつも十分な量が摂取されているか常に職員が注意をし申し送り等をして確認している。またいつでも水分補給が出来るような環境を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し利用者へ個別に支援出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	快適に生活できるように排泄のタイミングをはかたりパターンを掴んだりトイレでの排泄の自立のための支援をこまめに行っている。	排尿パターンからタイミングよい排泄介護をし、自立支援を目標にしている。各居室にあるトイレを使い、排泄介護時の羞恥心や人としての誇りが侵害されないように細心の注意をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のために水分が充分摂れる様に居室やホールにお茶を常時用意したり、食事や運動の量にも気を配り排便チェック表でチェックしたりして取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の機会を多く持てるように週に5回実施して利用者の希望に添えるようにしている。ゆったりと入浴出来るように入浴剤やボディシャンプー・リンスにも好みの物を使うようにしている。	週5日、午後2時から5時の間で好きなように入浴が出来る支援を実践している。個別なリラックスタイムになるような支援を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の居室は元より、共有のスペースでもソファをいくつも置いて自由に休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が責任をもって各自の服薬が行われるように最後まで見守り等の支援を行っている。症状に変化があれば早急に看護師への連絡を行い、次の手立てを考えるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各自の好みや嗜好の把握に努め、生き物の世話や草花の手入れ、嗜好品の提供、掃除などの協力を仰いで喜びが感じられるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や買い物など、また喫茶店や外食などへの支援やご家族の協力で外泊や墓参など自由に出掛けられるように支援している。	散歩・外食・買い物・喫茶等、ホームに閉じこもらない支援を実践している。常に団体で出るのではなく、個別な要望を中心に外気に触れることを考えて支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理の出来る方には自分で財布を管理してもらったり、他の方は好きなものが自由に買える様な支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など要望に応じて自由にやり取りが出来るような支援を行っている。また、一年を通じて暑中見舞いや年賀状など欠かさず送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔な環境であることは元より季節感を感じて和める様な雰囲気作りを行い居心地良く生活が出来るように工夫している。	広く明るいホールと廊下、くつろげるコーナー・ソファ、季節感や生活が感じられる装飾、清潔な臭いと空気の流れが感じられるゆったりした空間である。現在、日中は居室にこもる人も無く、ホールのそこそこで寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間でも個人で寛げるようにソファや和室に座椅子を置いて自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに合わせて馴染みの物を置いたり草花を飾ったり、写真を貼ったりと思いいいに居心地良く過ごせるように制約を設けずに受け入れている。	各居室入口コーナーに洗面台とトイレが設置されている。ベットの部屋は和風な障子が有りプライバシー的にも好感が持てる。馴染みの調度品や写真が飾られ、好みのプライベート空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を付けたり名前を入れたデザイン板を貼ったりして識別を容易にしている。又手すりの無い部分には椅子の背もたれを代用するなどして安全な歩行の手助けの工夫等をしている。		